

令和5年8月（第4回）教育委員会 議事録

1 開会及び閉会の日時

令和5年8月1日（火）午後1時30分～午後4時10分

2 場所

本庁舎 302会議室

3 出席委員

- ・教育長 松本 謙一
- ・同職務代理者 高坂 真理
- ・教育委員 林 紀孝
- ・教育委員 中川 日登美
- ・教育委員 藤原 洋

4 説明出席者

- ・教育部長 笠井 学
- ・教育部次長・生涯学習スポーツ課長 鵜野 幸男
- ・教育部参事・教育総務課長 氏家 智伸
- ・中央図書館長 保市 のり子
- ・教育センター所長 高川 芳昭
- ・文化・世界遺産課課長 上野 容男
- ・高校総体スキー推進室長補佐 宮崎 秀樹
- ・総合政策部次長・こども課長 溝口 早苗
- ・教育総務課副参事 山本 佳和
- ・教育総務課主幹 金谷 諭
- ・教育総務課主幹 佐藤 聖子
- ・教育総務課主事 村井 美緒

5 傍聴者 なし

6 会議の要旨 午後1時30分、教育長が開会を宣し、議事に入る。

1 教育長の報告

7月10日（月）富山県教育委員会連合会定期総会出席

7月18日（火）全国高校総体壮行式出席

7月26日（水）武蔵野市児童利賀村訪問お別れ式出席

他、教育長が出席した会議・行事について概要の説明があった。

2 前回議事録の承認 全員異議なく承認した。

3 協議事項

(1) 令和5年度南砺市教育委員会事務の点検評価報告書(案)について各担当課長から説明を行った。

(2) 令和5年度教育委員会点検評価委員会 委員の委嘱について教育総務課長から説明を行った。

4 報告事項

(1) 令和5年度6月会議個別質問答弁要旨について各担当課長から説明を行った。

(2) 令和5年度9月補正の概要について各担当課長から説明を行った。

(3) 令和5年度南砺市中学生学習支援事業について生涯学習スポーツ課長から説明を行った。

(4) 南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ2023開催について文化・世界遺産課長から説明を行った。

(5) 文化と教育の先端自治体連合南砺市大会の開催について

文化・世界遺産課長から説明を行った。

5 その他

(1) 南砺市立図書館 8 月事業について

中央図書館長から説明を行った。

(2) 令和 5 年度 南砺市教育委員 視察研修について(案)

教育総務課副参事から説明を行った。

6 今後の日程

次回教育委員会開催 (予定)

日時 令和 5 年 9 月 1 9 日 (火) 午後 2 時

場所 中央図書館会議室

7 議事

協議事項について

(1) 令和 5 年度南砺市教育委員会事務の点検評価報告書(案)について (別冊資料)

○教 育 委 員 員 16 ページの「令和 4 年度 教育委員会施策体系と評価」の「基本目標 5 魅力ある文化芸術活動の振興」は、10 ページの「南砺市教育委員会重点施策」の中には含まれていない。

基本目標 5 が教育委員会の重点施策の中に記載が無いのは何故か。

○事 務 局 15 ページの一番下の記載の通り、基本目標 5 については「南砺市教育に関する事務の職務制限の特例に関する条例」に基づき、市長(文化・世界遺産課所管)が管理し、執行することとなっていることから、教育委員会の重点施策中には記載をしていない。

○教 育 委 員 員 「点検評価報告書」と「教育委員会重点施策」間で、目標内容に違いがあると、点検評価委員が何に基づいて評価を行えば良いか分かりづらいのではないか。

○事 務 局 16 ページの基本目標 5 の施策内容については、市長部局が管理・執行するため教育委員会で評価を行う必要がないが、教育振興基本計画の内容と整合性がとれるよう、記載内容の修正を検討する。

○教 育 委 員 員 同じく 16 ページで、こども課については令和 5 年度から教育委員会から総合政策部へ移管したが、こども課事業は令和 5 年度以降の点検評価では教育委員会の評価対象とするのか。

○事 務 局 現行の教育委員会重点施策は、令和 2 年度から令和 6 年度までの 5 年間の重点施策である。

こども課事業に関して、教育委員会点検評価及び重点施策での取り扱いについては、令和 7 年度以降の重点施策を考える来年度中に検討し、改めて教育委員会で提案する。

- 教 育 委 員 評 価（A～D）については、教育委員会事務局の自己評価なのか。
- 事 務 局 事務局で自己評価を行っている。
- 教 育 委 員 「エ 主な事業」に関しては、新しく取り組んだものや内容を充実させたものについて、一目見て分かるような記載があると評価がしやすい資料となるのではないか。
- 事 務 局 各事業内容について、「新規・継続・拡充」を追記する。
- 教 育 委 員 「イ 主な指標」の目標値について、令和6年度の最終目標値のみの記載だが、年度毎に評価を行うのであれば、年度毎の目標値を設定する方が評価しやすい資料となるのではないか。
- 事 務 局 指標部分については、現計画が令和6年度までのものであるため、令和5年度及び令和6年度は現在の指標の記載内容で進めさせてほしい。
次の令和7年度からの5年間の計画を考える来年度中に改めて検討し、教育委員会で提案する。
- 教 育 委 員 18ページの「ア 計画の体系」中の「主な取組」と「イ 主な指標」中で、「ふるさと学習の推進」「ふるさと教育の推進」と、同事業であるが記載の仕方が異なっているため、統一すべきではないか。
- 事 務 局 「ア 計画の体系」中の「主な取組」の記載について、「ふるさと教育の推進」に修正し、記載の仕方を統一する。
- 教 育 委 員 19ページの「ウ 点検及び評価」の⑤について、キャリア教育の推進のために、社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業が学校で行われていることは例年記載されているが、この事業の他にも、学校でキャリア教育として行っていることはないのか。
- 事 務 局 各学校で、企業による講演会や生徒の企業訪問も計画して実施しているため、その内容についても記載する。
- 教 育 委 員 18ページの「ウ 点検及び評価」の②について、いじめの早期対応のためのアンケートを学期ごとに実施しているという記載があるが、アンケート実施後どのように活用されているかの記載もあれば良い。
- 事 務 局 アンケート実施後の活用方法についても記載する。
- 教 育 委 員 22ページの「イ 主な指標」の令和4年度の実績値を見ると、中学生については全ての内容において、前年度と比べて数値が減少している。
何故このような結果となったのかという考察や、結果を受けての今後の取組について記載があれば良い。
- 事 務 局 考察や、結果を受けての今後の取組について記載する。

- 教 育 委 員 29ページの「イ 主な指標」の「電子黒板整備率」について、既に令和3年度時点で100%を達成しているため、別指標を設定し直すのも良いのではないか。
- 事 務 局 電子黒板再整備率等、別指標の設定について検討し、改めて教育委員会で報告する。
- 教 育 委 員 22ページについてだが、「イ 主な指標」の各内容が、中学生について全て前年度を下回っていることを踏まえると、評価が「B」で良いのかが疑問。
「C」評価になりうる部分であるため、事務局の方で再度評価について再検討してほしい。
- 事 務 局 評価についても再検討を行う。
- 教 育 委 員 30ページの「エ 主な事業」の②について、通学路の合同点検は、令和4年度は全学校で実施したのではなく、このページに記載のある学校しか行われていないのか。
また、スクールバス置き去り防止装置設置についても現在取り組んでいることと思うので、「エ 主な事業」の中に記載をしたら良いのではないか。
- 事 務 局 通学路の合同点検は3年おきに各学校校下で実施しているため、令和4年度は記載してある学校のみが点検を行った。
合同点検の実施方法が分かりやすいよう、改めて記載内容を修正する。
次に、スクールバス置き去り防止装置設置については、令和5年度から事業を行っている。そのため、「エ 主な事業」への記載ではなく、「オ 今後の取組と改善点」の箇所に記載する方向で修正する。
- 教 育 委 員 40ページの「ウ 点検及び評価」の②について、利用者満足度の観点での評価及びサービス向上の取組み状況の観点での評価がどちらも「B」とある。この評価に対して、全体の評価は「C」評価となっている。何故全体の評価を「B」ではなく「C」評価としたのか。
- 事 務 局 全体の評価を「C」としたのは、「イ 主な指標」の「モニタリングの評価Aの施設数」が0であり、課題があることからこの評価とした。
- 教 育 委 員 評価基準が異なると、評価する側にとっても分かりづらいため、記載内容の修正が必要ではないか。
- 事 務 局 「ウ 点検及び評価」の②の「B」評価の文言の前に「モニタリング評価」という文言を追記する等、分かりやすい内容となるよう修正する。
- 教 育 委 員 46ページの「ウ 点検及び評価」の記載について、評価「B」横の記載内容について、「スポーツ施設の利用者の減

少」とある。この記載については、「イ 主な指標」を見ると令和3年度から令和4年度にかけて、スポーツ施設利用延べ人数は39万人から44万人に増加していることが読み取れるため、「減少」という記載だと誤解を招きうることから、修正すべきではないか。

○事務局 「ウ 点検及び評価」の記載内容について、「利用者の微増はしているが、コロナ禍前の利用状況には達していない。」というような記載に修正する。

○教育委員 52ページについて、「イ 主な指標」では（南砺市市民意識調査）と（公立保育園保護者アンケート）の数値には大きな差がある。この数値の違いの要因は何なのか。

○事務局 南砺市市民意識調査は、家庭内に0歳～18歳の子どもがいる方に回答をお願いしている。そのため、回答者が子どもの保護者だけではなく、祖父母や0歳～18歳の子どもの兄弟という可能性があり、十分に南砺市の子育て支援について理解していない世代からの回答も含まれていることから、公立保育園保護者アンケートの数値と比べると高い数値ではないということが考えられる。

○教育委員 南砺市は様々な子育て支援施策を行っているが、そのことが当事者である保護者にしか伝わっておらず、その他の世代の方に十分にPRできていないということがこの数値の差から考えられる。この点検評価報告書内でも、「イ 主な指標」で記載のある2調査の数値の差に触れた上で、今後どのような取組を行っていくかということについても記載してほしい。

○事務局 55ページの「オ 今後の取組と改善点」に、この調査結果を受けての今後の取組について記載する。

○教育委員 59ページの「エ 主な事業」の②④について、要保護児童対策地域協議会の実務者会議は、令和4年度に10回実施したと記載があるが、毎月この会議を実施しているということなのか。

○事務局 8月と2月の年2回、地域ごとに会議を行っている。2回/年×要保護児童のいる5地域での会議延べ回数ということで10回と記載している。

○教育委員 50ページ「エ 主な事業」の「②保育士・看護師等の確保」について、以前保育園へ行った際に、事務補助員の方がいることでとても助かっているということを現場の先生方から伺った。

現場からの声も踏まえて、事務補助員の配置についてもこの②の箇所でも触れておくべきではないか。

- 事務 局 事務補助員についても、現在記載している保育士、子育て支援員、調理師に加えて記載する。
- 教育 委員 52ページについて、「ウ 点検及び評価」では「B」評価であったが、令和4年度に子どもの権利条例を策定したという実績もあることから、「A」評価でも良いのではないか。
- 事務 局 評価について、委員の意見も踏まえ再検討する。
- 教育 委員 48ページの「イ 主な指標」の「全体研修への参加・県外研修への参加」についてコロナ禍ということでオンライン研修も多いかと思うが、オンラインでの研修参加人数もこの人数に含まれているのか。
- 事務 局 オンラインでの研修参加人数も含めた人数となっている。
- 教育 委員 50ページから51ページの「エ 主な事業」の実績数値（研修参加人数等）について、評価がしやすいよう昨年度の数値も令和4年度の数値の横に括弧付けで記載してはどうか。
- 事務 局 前年度の数値についても記載する。

午後4時10分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。

令和5年8月 日

南砺市教育委員会
教育長